



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 地域創造レター

4月号—No.347  
2024.3.25  
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【朱華(はねず)】黄味がかった薄紅色。

万葉集の歌にも詠まれている由緒ある伝統色。「はねず」は薄紅色の花を咲かせる庭梅の古名とされ(諸説ある)、「波泥孺」「翼酢」などの当て字もある。退色しやすかったことから、「思はじと言ひてしものをはねず色のうつろひやすき我が心かも」など、変わりやすい心の枕詞として用いられるようになった。

## ●目次 / contents

今月のニュース..... 2

ステージラボ岡山セッション報告

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボ八戸セッション参加者募集 / 第24回地域伝統芸能まつり開催 / 令和5年度リージョナルシアター事業報告 / 令和5年度公共ホール邦楽活性化事業報告 / 令和5年度公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)報告 / 令和5年度公立美術館出前(オーダーメイド)型研修事業開催報告

今月の情報..... 8

地域通信 / アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

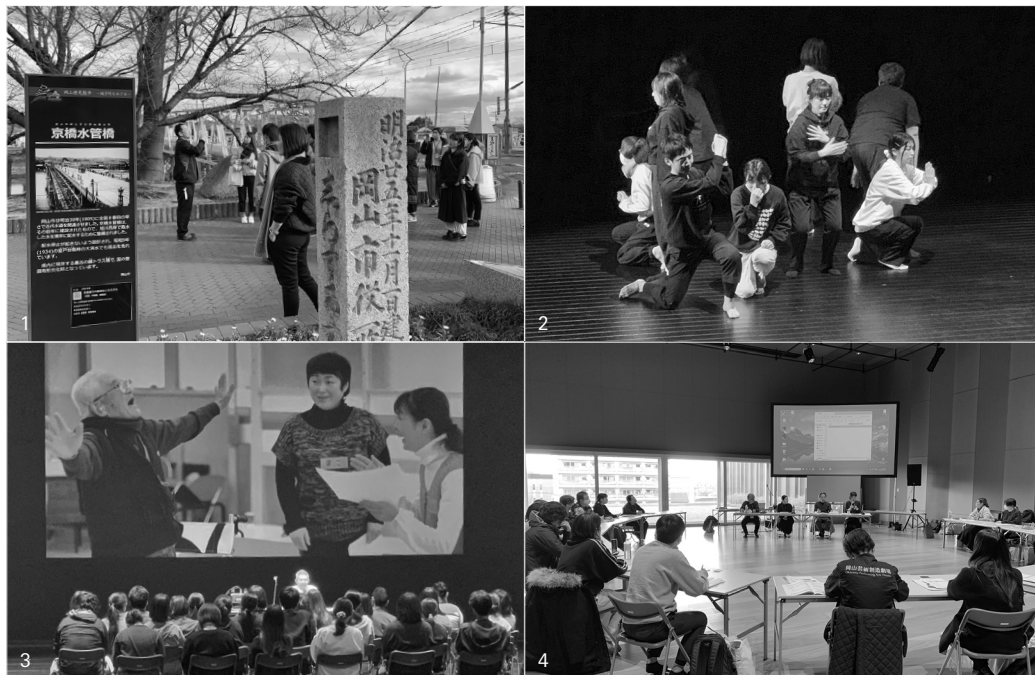
兵庫県丹波篠山市 丹波篠山市民ミュージカル  
『ノートル=ダム・ド・バリ〜愛と宿命の物語〜』

発行元：一般財団法人地域創造  
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11  
オリックス赤坂2丁目ビル 9F  
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060  
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

# 岡山市の新たな文化芸術拠点を会場に開催

## ステージラボ 岡山セッション 報告

2024年2月6日～9日



写真

1: ホール入門コース「キックオフ」(岡山市内街歩きの様子)

2: 自主事業コース「創作の現場体験～創作者、出演者の生の声に触れる」

3: 共通プログラム「老いと演劇のワークショップ～演劇の可能性を体験する～」

4: 自主事業コース「同じ仕事に取り組んでいる仲間の声に触れる」

●コースコーディネーター

○ホール入門コース

多田淳之介(演出家、東京デスロック主宰)

○自主事業コース

セレノグラフィカ: 隅地菜歩(振付家、ダンサー)、阿比留修一(ダンサー)

●ステージラボに関する問い合わせ

芸術環境部 研修担当

Tel. 03-5573-4183

\*1 大(1,753席)、中(807席)、小(最大300席)劇場のほか、アートサロン(平土間/300席)、練習室、ギャラリー等を備えた市民文化活動と文化芸術の創造発信のための大規模文化施設。

\*2 地域創造レター2023年7月号「今月のレポート」参照。

ステージラボ岡山セッションが2023年9月にグランドオープンしたばかりの岡山芸術創造劇場ハレノワ<sup>(\*)</sup>で2月6日から9日まで開催されました。ハレノワは老朽化した岡山市民会館と市民文化ホールを統合・移転し、市中心部の再開発エリアに店舗・オフィス・住居から成る複合ビル内に整備された大規模文化施設です。

今回はホール入門コースと自主事業コースの2コースを開講し、ホール入門コースは多田淳之介さん(演出家、東京デスロック主宰)、自主事業コースはセレノグラフィカ(以下、セレノ)の隅地菜歩さんと阿比留修一さんがコーディネーターを務めました。両コースとも共生社会を考える内容で、仲間との議論を通じて学ぶことの多い研修となりました。

### ●街歩きからスタートしたホール入門コース

ハレノワが立地しているのは岡山城下の商人町で、芝居小屋や映画館、飲食店で賑わい、木下サーカスが創業したかつての一大歓楽街・千日前です。こうした歴史を聞きながら散策する街歩きでホール入門コースはスタートしました。

その後、多田さんによる演劇のワークショップで交流。多田さんは、「舞台芸術には教える

ワークショップと教えないワークショップがある。僕のワークショップは教えない、訓練しない、達成を目指さない、評価もしない。コミュニケーションについての気づきがどれだけあるかが重要」と丁寧に話しかけていました。

2日目には、音楽と現代ダンスのワークショップを体験。また、演劇の制作者で上級ハラスメント対策アドバイザーの資格をもつ植松侑子さんからハラスメントの基礎についてレクチャーを受けました。「ハラスメントはリスペクトを欠いた言動が繰り返し執拗に行われることであり、私たち自身が日頃からお互いを尊敬しあう文化をどうつくっていくかが問われている」「心理的安全性のある職場、創造環境がいいパフォーマンスを生み出すために必要」「起こってから対処するのではなく、起こらないよう予防することが重要」などのアドバイスが行われました<sup>(\*)</sup>。

3日目には、障害のある人とのアートについて考えるゼミが行われました。講師はたんぼぼの家アートセンターHANA副施設長の佐藤拓道さんです。奈良を拠点とするたんぼぼの家には、身体障害、知的障害、精神障害など20～70歳のさまざまなメンバーが所属。アートとケアの観点からアートや演劇など多彩な取り

組みを行っており、2004年にはアートセンター HANA、16年には障害のある人と共にクリエイターや企業等が商品や仕事を開発する Good Job! Center 香芝を開設しています。

佐藤さんは、「人生の選択肢を増やすことを大切にしている。一般に問題行動とされることでも、メンバーの興味を大切に、作品として展示もしている。展示に至るまでには5年、10年という時間も必要。障害のある人たちとの演劇 HANA PLAYでは、毎週1回、10人ほどのメンバーが集まり、息をパスするワークや食事介助をスローモーションで再現するワークなどを行い、彼らの視点に立ち、彼らが楽しんでできることを見つけて、障害のある人の視線を大切にしたいパフォーマンスの創作をしている」と話していました。

### ● “寄り添う”をテーマにした自主事業コース

自主事業コースはセレノらしい親身なコーディネートが光るプログラムとなりました。講師はセレノがイメージに合わせて選曲した入場曲で登場。企画づくりのグループワークでは受講生が感じた「わくわく」「もじもじ」という主観的・身体的な言葉で感想を出しあうなど、共感を育みたいという思いが伝わってきました。

2日目は鈴木ユキオさんとセレノによるダンスワークショップで汗を流し、3日目は支援が必要な人に対するアートの役割についてみんなで考えました。講師となったのは、二葉むさしが丘学園自立支援コーディネーター(\*3)の鈴木章浩さんと京都若者サポートステーション(\*4)相談支援員の持明院由子さんです。

鈴木さんは児童養護施設で2019年からセレノと継続してきたワークショップについて紹介し、「芸術体験には、他者との共感、自己肯定感、他者への信頼感といった、社会で生きていく上で欠かせないことを獲得する機会がたくさんある。自立とはこうした公共性を獲得することだと思う」と指摘していました。

東山青少年活動センターと連携し、「じぶんみがきダンス」を行ってきた持明院さんは、「どんな仕事でも一人ではできないのでコミュニケー

ションは不可欠。評価が下されない場で誰かと何かをする、相手の表現を否定せずに受け取るというダンスのワークで他者との関係ができ、話すことの苦手な人も安心感を抱いていて、コミュニケーションが、話すことだけではないという気づきがあった」と振り返っていました。

隅地さんは、「アートを求めている現場の人を講師に招いて、それにどう対応していくかを一緒に考えたいと思った。対象について語るのではなく、対象の傍らで語る(スピーク・ニアバイ)、寄り添うことが劇場にもっと求められる時代になった。一緒に笑って、泣いて、喜べる劇場であればいいなと思っている」と話していました。

※

共通プログラムでも社会課題を踏まえ、「老いと演劇」をテーマに岡山を拠点に活動する OiBokkeShiの菅原直樹さん(劇作家、演出家、俳優、介護福祉士)によるレクチャーとワークショップが行われました。

次のステージラボは、7月に八戸ポータルミュージアムはっち・八戸市美術館を会場に開催される予定です。奮ってご参加ください。

\*3 入所している子どもたちの自立支援やアフターケアを行う専門職。

\*4 地域若者サポートステーション(通称:サポステ)は働くことに悩みを抱えている15~49歳までを対象に就労に向けた支援を行う機関。厚生労働省が委託した全国の民間団体などが運営。全国117カ所。

### ステージラボ岡山セッション プログラム表

	ホール入門コース	自主事業コース
	開講式/オリエンテーション	
2月6日	「キックオフ」 多田淳之介	「オープニングワークとオープニングトーク」 津村卓、セレノグラフィカ
	全体交流会	
2月7日	「音楽ワークショップ体験」 古橋果林	「創作の現場へ〜二つのダンスワークショップに触れる〜」 鈴木ユキオ、セレノグラフィカ
	「風通しの良い創作現場のために」 植松侑子	「創作の現場体験〜創作者、出演者の生の声に触れる〜」 鈴木ユキオ、セレノグラフィカ
	「ダンスワークショップ体験」 岩淵貞太	
	共通プログラム「老いと演劇のワークショップ〜演劇の可能性を体験する〜」 菅原直樹	
2月8日	「公共劇場のこれまでとこれからを考える」 加賀田浩二、多田淳之介	「支援の現場の生の声に触れる」 持明院由子、鈴木章浩
	「障害のある人とのアートについて考える」 佐藤拓道	「プログラム参加者の生の声に触れる」 高橋優、永松玲子
	「やりたいこと、できること、やらなくてはいけないことから事業を考える」 多田淳之介	「同じ仕事に取り組んでいる仲間の声に触れる」 持明院由子、鈴木章浩、栗林礼也
2月9日	「まとめ、フィードバック」 多田淳之介	「クロージングトークとクロージングワーク。自分の生の声に触れる」 津村卓、栗林礼也、セレノグラフィカ
	修了式	

## 財団からのお知らせ

### ●ステージラボ八戸セッション参加者募集

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップ等の体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。

令和6年度の前期セッションは、八戸ポータルミュージアムはっち・八戸市美術館(八戸市)にて2コースを開催します。各コースの詳細は募集要領をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

**募集締切:2024年4月25日(木)必着**

#### ●ステージラボ八戸セッション概要

[日程] 2024年7月2日(火)~5日(金)

[会場] 八戸ポータルミュージアムはっち(八戸市三日町11-1)、八戸市美術館(八戸市大字番町10-4)

[開講コース] ホール入門コース、自主事業コース

[定員] 各コース20名程度

[主催] 一般財団法人地域創造

[共催] 八戸市

### ◎ホール入門コース

【コーディネーター】

大澤寅雄(合同会社文化コモンズ研究所 代表・主任研究員)

【対象となる職員の目安】

公共ホール・劇場(開館準備のための組織を含む)において、業務経験年数1年半未満(開館準備のための組織は年数不問)の職員

【コース概要】

公共ホールにはさまざまな顔があります。公演のための集客施設、講演会や会議のための集会施設、表現や創作などの活動拠点、学び、教え、出会い、憩いの場、開かれた居場所。それらの顔の“表情”がホールの魅力であり、表情を作るのがホールの職員です。この4日間、参加者の皆さんが互いに顔を見ながら、あるいは自分の顔を鏡に映して、地域住民に見せる、あなた自身の表情、あなたのホールの表情を作りましょう。

### ◎自主事業コース

【コーディネーター】

田村一行(大駱駝艦舞踏手・振付家)

【対象となる職員の目安】

自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2~3年程度の職員

【コース概要】

今日までさまざまな場所で地域の資源を活用しながら30以上の作品を創作してきました。各ホールの状況・環境・形態・問題は一つとして同じものではなく、「こうすれば良い」というメソッドはありません。しかしだからこそ外せない重要なポイントが見えてくるのです。今日まで私が作品創作を行う中でのポイントとは何であったのかを振り返り、また実際に市民参加作品等の事業を継続している劇場の例を検証しながら、そこから見える自身のホールとの類似点・相違点を探りましょう。「地域とアーティストが作品を創作する」という事業を実施するためには何が必要か、またその未来について考察します。

### ◎八戸ポータルミュージアムはっち

八戸市の新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や観光と地域文化の振興を図りながら、中心市街地と市全体を活性化するため、2011年2月11日にオープンしました。開館以来、「はっち」の愛称で親しまれ、多くの市民に利用されるとともに、八戸の歴史や文化を見つめ直し、時には新しいものを取り入れながら新たな魅力と賑わいを生み出し、中心市街地の活性化にも寄与しています。

[管理者] 八戸市

### ◎八戸市美術館

アートを通じた出会いが人を育み、人の成長がまちを創る「出会いと学びのアートファーム」をコンセプトとして、2021年11月3日に開館しました。従来の“もの”としての美術品展示が中心だった美術館とは異なり、“ひと”が活動する空間を大きく確保することで、“もの”や“こと”を生み出す新しいかたちの美術館として、新たな文化創造と八戸市全体の活性化を図ることを目指しています。

[管理者] 八戸市

#### ●ステージラボ八戸セッション参加申し込み方法

当財団ホームページから募集要領・申込書類をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。

<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html#boshu>

申し込み先: kensyu@jafra.or.jp

#### ●ステージラボに関する問い合わせ

芸術環境部 研修担当

Tel. 03-5573-4183

## ▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

### ●第24回地域伝統芸能まつり開催



各地の地域伝統芸能や古典芸能が一堂に会する第24回地域伝統芸能まつりを3月3日、東京都渋谷区のNHKホールで開催、「翔」をテーマに地域伝統芸能7演目、古典芸能1演目が披露されました。オープニングでは、津軽三味線の若き家元である二代目佐々木光儀さんが今回のために創作した楽曲『飛翔』を披露し、その後出場者全員がテーマ曲『曼荼羅21』に合わせて元気よくステージに登場。観客を前に士気を高め、まつりの始まりを活気づけました。

披露された最初の演目は、岩手県一関市の「行山流舞川鹿子躍」。鹿角をつけた頭、ササラと呼ばれる約3メートルの竹竿を背負い、腰につけた太鼓を叩きながら、十数人の演者が跳ぶ姿は圧巻でした。

次に登場したのは、埼玉県所沢市の「重松流祭ばやし」。小さな子どもも含めた三世代で、テンポの良いお囃子に合わせて天狗、おかめなどさまざまな踊りを披露。口伝で伝えられる地域伝統芸能を核としたコミュニティの結束を見せてくれました。

続いて、昨年度ユネスコ無形文化遺産に登録された風流踊のひとつ、東京都日の出町の「下平井の鳳凰の舞」。小学生男子一人ひとりが台詞を披露し踊る「奴の舞」と、中学生以上の男性が甲高い掛け声とともに舞う「鳳凰の舞」で構成されています。鳳凰の冠など、独特の衣装にも注目が集まりました。愛知県大治町の「大治太鼓」は、バチを回転させたり、飛ばしたりと曲芸性の高い迫力ある演技を披露。特に細身のバチで高速に打ち鳴らす姿は圧巻で、伝統を守りながらも進化させていく保存会の日々

の努力を目の当たりにすることができました。

第2部は古典芸能からスタート。狂言『神鳴』（大蔵流）が、人間国宝の茂山七五三さん、茂山逸平さんらによって演じられました。空から落ちてきた神鳴様をヤブ医者の治療するという奇想天外でわかりやすいストーリーに、会場からは思わず笑いがこぼれました。

続いて、神奈川県川崎市の「新城の囃子曲持」。約55kgの祝い俵を持ち上げる力技、生活用品だった長柄、脚立などを使う高度な曲芸や、力士の腹の上に米俵と大きな臼を乗せて餅をつく大技「腹餅」など、目が離せない楽しい芸を披露しました。島根県江津市の「大元神楽」は6年に1度の式年祭でのみ披露され、神職によって舞われる神がかり託宣の古儀を伝承している点が大きな特徴です。飯尾山八幡宮の一間をホールに再現し、幕を挟んで神と鬼が対峙する「鍾馗」という演目を披露。地元以外で鑑賞できる貴重な機会となりました。

最後に登場したのは、東京都の「江戸火消しの梯子乗り」。元々は作業唄だった「木遣」を唄いながら、纏を粹にたなびかせながら登場。その後、高さ6.5mの梯子に上った演者の手からは、今回のテーマが書かれた垂れ幕が降ろされました。次々に繰り出される技と、梯子を支える12人の阿吽の呼吸に目が釘付けになりました。

その後、「江戸火消しの梯子乗り」の総代の掛け声のもと、客席と共に三本締めを行い、惜しまれつつフィナーレを迎えました。客席からは、出演者の方々への敬意と今後への期待を込めた盛大な拍手が惜しみなく送られました。

写真：第24回地域伝統芸能まつりのステージから  
左：行山流舞川鹿子躍（岩手県一関市）  
右：大元神楽（島根県江津市）

- 第24回地域伝統芸能まつり
- [会期] 2024年3月3日(日)
- [会場] NHKホール(東京都渋谷区)
- [主催] 地域伝統芸能まつり実行委員会、一般財団法人地域創造
- [実行委員] 鎌田東二、香山充弘、河内隆、熊笹御堂朋子、小松和彦、下重暁子、田村孝子、内藤尚志、山本容子(50音順、敬称略)
- [後援] 総務省、文化庁、観光庁、NHK
- [協力] 名鉄観光サービス株式会社
- 演目・出演自治体
- 行山流舞川鹿子躍(岩手県一関市)
- 重松流祭ばやし(埼玉県所沢市)
- 下平井の鳳凰の舞(東京都日の出町)
- 大治太鼓(愛知県大治町)
- 狂言『神鳴』(大蔵流)
- 出演：茂山七五三、茂山逸平 ほか
- 新城の囃子曲持(神奈川県川崎市)
- 大元神楽(島根県江津市)
- 江戸火消しの梯子乗り(東京都)

## 財団からのお知らせ

### ●令和5年度リージョナルシアター事業報告

演出家等を公共ホール等に派遣し、アウトリーチやワークショップを実施するリージョナルシアター事業。令和5年度は5団体が参加し、街の規模もホールのミッションもさまざまな中でホール担当者は派遣アーティストと対話を重ねながら企画した事業を実施しました。

茨城県日立市では、子どもや親子などの若い世代に劇場に足を運んでもらう機会をつくることを目的として、親子対象のワークショップ「まち歩きナゾさがし」と「紙であそぶ桃太郎」を実施しました。街歩きのワークショップでは、ホールの周辺を散策し、気になる風景や物を写真に収め、その写真から感じるナゾワード(写真のタイトル)を考えました。それぞれのナゾワードがどの写真のものなのかを想像しながらクイズに挑戦。みんなの発想の面白さの発見につながる内容でした。

東京都狛江市では、市民に公民館の魅力を知らせていただくために西河原劇場「ホールであそぼう」と題して、世代ごとにワークショップを実施しました。親子を対象とした「西河原アドベンチャー」では「変な浦島太郎を作ろう」をテーマにして、公民館のさまざまな部屋を使い、参加者がチームに分かれ各部屋を周りながらセリフの穴埋め、配役、効果音、小道具などを考えて、最後に

発表をしました。「あつという間だったので、もっとやりたかった」「また同じようなワークショップがあれば参加したい」という参加者の声に加え、後日、参加者から公民館を利用したい旨の相談もあり、さっそく成果を実感していただくことができたようです。

当事業では、派遣アーティストと共に多様なプログラムを実施することを通じて、ホールや地域の抱える課題と向き合い、地域の魅力や資源を発見することができます。令和6年度は8地域で実施予定ですので、近隣地域で実施の際はぜひご視察ください。なお、令和7年度の実施団体の募集については、後日詳細をお知らせいたします。



街歩きのワークショップ(日立市/福田修志)

### ●令和5年度公共ホール邦楽活性化事業報告

地域創造が市町村等と共催し、邦楽分野のアクティビティとホールプログラムを実施する公共ホール邦楽活性化事業。今年度のすべての地域で事業が終了し、今号では、その中から三田市(12月1日～3日)の模様をご紹介します。

三田市は兵庫県南東部の南東部、神戸や大阪の衛星都市として発展しつつも、農業や酪農・畜産も盛んな田園都市です。演奏家は、棚原健太さん(登録演奏家/歌三線)、町田倫士さん(琉球箏)、大城建大郎さん(琉球笛)の3名。今回のアクティビティは、市内の小学校、特別支援学校、老人ホーム、就労支援施設とすべて異なる施設を対象に年齢層も幼児から高齢者までさまざま、琉球音階版の『かえるのうた』でのわかりやすい琉球音階の紹介や、沖縄の手踊りであるカチャーシーを盛り込んだ参加型の体操で和やかな時間を過ごしました。

ホールコンサートでは、1部では昔の宮廷で演奏された琉球古典音楽、2部では

耳馴染みのある沖縄民謡など現代の琉球音楽をお届けしました。最後は特別プログラムとして三田市の100話を超える民話から2話を題材に地元アーティストとコラボレーション作品を演奏しました。三田市在住の俳優・一木美貴子さんと、三田市総合文化センター郷の音ホール第5期SATONONEレジデンシャル・アーティストの梅北千香さん(ソプラノ)による朗読、地元水彩画家の岩本芳子さんの水彩画とのコラボレーションで、まさに三田の魅力を存分に活かしたコンサートになりました。



三田市総合文化センターでのコンサートの様子

#### ●リージョナルシアター事業

○令和5年度実施団体/派遣アーティスト

青森県八戸市(ごまのはえ)

茨城県日立市(福田修志)

茨城県茨城町(有門正太郎)

東京都狛江市(田上豊)

京都府京都市(多田淳之介)

○アドバイザー

内藤裕敬(劇作家・演出家、南河内万歳一座座長)

岩崎正裕(劇作家・演出家、劇団太陽族代表)

○問い合わせ

芸術環境部 演劇担当

Tel. 03-5573-4124

#### ●邦楽活性化事業

○令和5年度実施団体/演奏家

埼玉県三郷市(棚原健太)

東京都調布市(川田健太)

滋賀県長浜市(川田健太)

大阪府河内長野市(藤重奈那子)

兵庫県神戸市(藤重奈那子)

兵庫県三田市(棚原健太)

熊本県宇土市(藤重奈那子)

○問い合わせ

芸術環境部 森永・矢嶋

Tel. 03-5573-4069

hougaku@jafra.or.jp

## ▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

### ●令和5年度公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)報告

コンテンポラリーダンスのアーティストと公共ホールが共同で地域やホールの特性を生かした企画を実施するダン活。今年度は、A：地域交流プログラムを6地域、B：市民参加作品創作・公演プログラムを2地域、C：公演プログラムを5地域の計13地域で実施しました。

Aプログラムを実施した愛知県知多市では、外国にルーツのある子どもたちに向けた家庭学習支援と居場所づくりに取り組むNPO法人でアウトリーチを行い、身体表現を通して子どもたちと支援員が普段の活動と異なる関係性を楽しんでいる様子が印象的でした。また、未就学児を含む親子を対象とした公募ワークショップでは、家でもできる身体遊びを楽しみながら、親子がお互いの身体に触れ合い、日常では後回しにしがちなコミュニケーションの時間をじっくりと過ごしていました。その他の地域でも、ケアの場に携わる人やブラジル人学校の生徒など、ダンスワークショップの持つ可能性を生かし、多様な対象者に向けた事業が行われました。

Cプログラムの広島県東広島市では、「東広島子どもたちに夢を届けるアーティストを東広島から」をコンセプトに、主に若い世代にプロのアーティストの全身全霊で表現する姿にふれてもらうことを目指し、作品についての思いや見どころ、

ダンスの魅力についてアーティストにインタビューを行い、映像による広報をSNS等で展開しました。また、7つの酒蔵が並ぶ街並みでの宣材撮影や、公演後の公募ワークショップで西条酒造り唄保存会とのコラボレーションを企画するなど、ホールで初めて実施するコンテンポラリーダンス公演があらゆる切り口で市民に届くよう、地域資源を活かした広報と事業実施にも挑戦しました。当日は多世代の観客が集まり、新しい表現と地域文化が交わり今後の事業への期待が感じられました。

ダン活では実施団体が地域のニーズを探りながら、ダンス事業を通じた地域活性化に取り組んでいます。令和7年度の実施団体募集については、次号および当財団ホームページでお知らせします。



公募ワークショップの様子  
(Cプログラム・広島県東広島市/アーティスト：井田亜彩実)

### ●公共ホール現代ダンス活性化事業

#### ○令和5年度実施団体/アーティスト

##### [Aプログラム]

茨城県日立市(大島匡史朗)、千葉県市川市(浅井信好)、長野県喬木村(中村蓉)、静岡県菊川市(井田亜彩実)、愛知県知多市(康本雅子)、京都府京都市(康本雅子)

##### [Bプログラム]

京都府(浅井信好)、高知県四万十市(藤田善宏)

##### [Cプログラム]

北海道大空町(中村蓉)、山形県鶴岡市(長与江里奈)、神奈川県茅ヶ崎市(藤田善宏)、広島県東広島市(井田亜彩実)、鹿児島県与論町(長与江里奈)

#### ○問い合わせ

芸術環境部 ダンス担当  
Tel. 03-5573-4075

#### ●令和5年度「公立美術館出前(オーダーメイド)型セミナー」

##### ●酒田市美術館

令和5年度第1回研修会：8月17日  
講師：佐藤幸宏、山田真規子

##### ●長崎県美術館

令和5年度第1回研修会：7月19日  
講師：船越幹央、釋知恵子  
第2回研修会：2月14日  
講師：洞田貫晋一郎、鳥巢智行

#### ○問い合わせ

総務部 三田・菅藤  
Tel. 03-5573-4184

### ●令和5年度公立美術館出前(オーダーメイド)型研修事業開催報告

この事業では、美術館のマネジメントに関する研修会を、地域創造と申請館の共催で2年間にわたって実施しています。研修テーマを申請館が希望する内容に沿って組み立てるオーダーメイド型であることが特徴で、県域や地域の美術館等と共に研修を受けることで相互交流の場とすることを目指しています。今年度は山形県の酒田市美術館(1回)、長崎県美術館(2回)で開催しました。

酒田市美術館の研修会テーマは「文化施設の連携と職員同士の交流の場づくりについて」。2カ年にわたる研修会も最終回ということで、参加職員同士の情報交換や交流の場を今後どのように構築し、継続していくかを考えていきたいと、北海道の学芸員のネットワーク「北海道美術館学芸員研究協議会」について佐藤幸宏氏(札幌芸術の森美術館館長)と、東京都内の区立美術館11館による連携活動「東京・区立美術館ネット

ワーク」について山田真規子氏(目黒区美術館学芸係長)を講師に招き、それぞれ事例を伺いました。庄内地域には小規模な文化施設が多く、特にコロナ禍を経て館同士の情報交換の場の重要性がますます高まっているとのことで、質疑応答にも熱が入りました。庄内地域でどのようなネットワークが生まれるのか、今後の動きも期待されます。

長崎県美術館では、1回目は「常設展の魅力向上と来館者数増加のための施策を考える」をテーマとして、大阪市の5つの博物館で実施した「常設展の魅力向上にかかる調査業務」について、同調査を行った船越幹央氏(大阪大学総合学術博物館 教授)、釋知恵子氏(大阪市博物館機構 事務局経営企画課)にご講義をいただきました。2回目は「ミュージアムから発信～デジタルマーケティング戦略と地域創生への取り組み～」をテーマに、SNSフォロワー数79万を抱える森美

術館のマーケティング担当をされている洞田貫晋一郎氏(洞田貫プランニングス(株) 代表取締役)と、広告会社で広告や新商品開発などに携わり、長崎県戦略PRアドバイザーを務める鳥巢智行氏((株) Better 代表取締役)のお二人にお話をいただきました。

このように当事業では、地域の特色や現在抱えている課題に沿って研修を行っています。なお、次年度の募集は10月末を予定しています。



長崎県美術館での第2回研修会の様子

## 地域通信

### ●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業(予定)です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

### ●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島  
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川  
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知  
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山  
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知  
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

### ●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。  
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093  
letter@jafra.or.jp  
地域創造情報担当

●2024年6月号情報締切  
4月22日(月)

●2024年6月号掲載対象情報  
2024年6月～8月に開催もしくは募集されるもの

### 北海道・東北

#### ●札幌市

札幌コンサートホールKitara  
〒064-0931 札幌市中央区南  
島公園1-15

Tel. 011-520-2000 川本孝

<https://www.kitara-sapporo.or.jp/>

#### Kitaraあ・ら・かると

子どもから大人まで参加できる  
ゴールデンウィークの音楽祭。3  
歳から入場可能なコンサートや  
5歳から楽しめるオーケストラ公  
演のほか、札幌市内の中学校合  
唱部、吹奏楽部とKitara専属オ  
ルガニストのウィリアム・フィ  
ールドが共演するコンサート  
や、奏者の手元・足元をズームア  
ップしてオルガンの魅力に迫る  
コンサートを開催。その他「楽  
器づくり体験」や「手づくりオル  
ガン演奏体験」など各種イベン  
トも実施。

[日程]5月3日～5日

[会場]札幌コンサートホールKitara

#### ●北海道釧路市

北海道立釧路芸術館

〒085-0017 釧路市幸町4-1-5

Tel. 0154-23-2381 松浦葵

<https://www.kushiro-artmu.jp/>

#### 釧路芸術館・珠玉のコレクション あなたとともに25年

昨年10月に開館25周年を迎えた  
釧路芸術館は、「映像芸術」「自然  
と芸術」「地域と芸術」をテーマ  
として約900点の作品を収集して  
きた。本展では、各分野のコレク  
ションから選りすぐった48作家  
による63点の名品を紹介する。

[出品作家]岩橋英遠、千住博、  
上田薫、アンセル・アダムス、森



展示の様子

山大道、杉本博司、赤穴宏、毛  
綱毅曠 ほか

[日程]2023年12月9日～4月7日

[会場]北海道立釧路芸術館

### 関東

#### ●茨城県日立市

日立市民科学文化財団

〒317-0073 日立市幸町1-21-1

(日立シビックセンター内)

Tel. 0294-24-7755 森本裕衣

<http://www.civic.jp/>

#### ワンコイン・コンサート2024

##### vol.1 気軽にクラシック～客席

##### からも参加できるコンサート～

気軽に音楽を楽しめる60分のワ  
ンコインコンサートシリーズ。今  
回は県内を中心に活躍する佐々  
木美緒(フルート)、杉田愛美(ク  
ラリネット)、高野真美(ピアノ)  
によるいばらき3人娘étoileが、  
『ラデツキー行進曲』や『春よ、  
来い』など、クラシックの名曲か  
らポップスまで幅広い曲目を演  
奏。手拍子で参加もできる親し  
みやすい内容となっている。

[日程]4月29日

[会場]日立シビックセンター 音  
楽ホール

#### ●栃木県宇都宮市

宇都宮美術館

〒320-0004 宇都宮市長岡町

1077

Tel. 028-643-0100 石川

<https://www.artpr.jp/u-moa>

#### イヴ・ネッツハマー

##### ささめく葉は空気の言問い

スイス現代美術を代表する映像  
インスタレーション作家、イヴ・ネ  
ッツハマー日本初の個展。これ  
までに制作した代表的な映像作  
品を紹介するとともに、土地の  
記憶の深層に潜行して起源の  
謎を照らし出してきたネッツハ  
マーが宇都宮の大谷採石場跡や  
足尾銅山跡の地下空間を訪れ、  
その光景から着想を得た竹を用  
いた大規模なインスタレーション

を館で現地制作し披露する。

[日程]3月10日～5月12日

[会場]宇都宮美術館

#### ●栃木県鹿沼市

鹿沼市立川上澄生美術館

〒322-0031 鹿沼市睦町287-

14

Tel. 0289-62-8272

<https://kawakamisumio-bijutsukan.jp/>

#### 館長プロデュース

##### 川上澄生「刷り」という実験室

川上澄生(1895～1972)は木版  
画制作において、1枚の版木か  
らさまざまな素材・技法を用い  
て複数の印象を引き出す刷りの  
実験を行い、その化学反応を楽  
しんだ。和紙だけでなく洋紙や  
艶紙、布、革、経木、絵の具が  
浸透しないアルミ箔にまで刷る  
という試みで、独自の表現を展  
開した。本展では、澄生の多様  
な“刷り”を紹介し、表現の探究  
者の一面にスポットを当てる。

[日程]1月10日～4月7日

[会場]鹿沼市立川上澄生美術館

#### ●さいたま市

埼玉県立近代美術館

〒330-0061 さいたま市浦和区

常盤9-30-1

Tel. 048-824-0111 佐伯・吉岡・松江

<https://pref.spec.ed.jp/momas/>

#### アブソリュート・チェアーズ

開館当初からデザイン椅子の名  
品を館内に設置してきた「椅子  
の美術館」が、従来とは異なる  
視点から、アートの中の椅子の  
機能や含意を読み解く。権威の  
象徴や身体補助など、社会や  
身体との密接な関わりの中で幅  
広い意味や象徴性をまとった椅  
子に焦点を当て、主に戦後から  
現代までの美術作品における椅  
子の表現に着目し、国内外の平  
面・立体・映像作品83点を紹介  
する。

[日程]2月17日～5月12日

[会場]埼玉県立近代美術館



## ▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

### ●東京都品川区

品川区立環境学習交流施設エ  
コルとごし

〒142-0042 品川区豊町2-1-30  
(戸越公園内)

Tel. 03-6451-3411 青木京子

<https://ecoru-togoshi.jp/>

#### 山本彌作品展「小さな生き物た ちの大きな世界」

羊毛や木綿、糸などの自然素材  
を使用し、植物や菌類などの自  
然物をテーマに創作している織  
維造形作家の山本彌。緑豊かな  
戸越公園内に位置する施設内  
を巡りながら、小さな生き物に  
目を向け、環境や自然の視点か  
ら、子どもたちにも伝わりやす  
いように作品・展示パネルなど  
を提示する。館内にある体験型  
の環境学習展示や環境セルフ  
なども併せて施設全体を楽しむ  
ことができる。

[日程] 3月26日～4月21日

[会場] 品川区立環境学習交流施  
設エコルとごし



### ●神奈川県鎌倉市

神奈川県立近代美術館 鎌倉別館  
〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-  
8-1

Tel. 0467-22-5000 永井

[http://www.moma.pref.kanagawa.  
jp/annex](http://www.moma.pref.kanagawa.jp/annex)

#### 小金沢健人×佐野繁次郎 ドローイング/シネマ

現代美術作家の小金沢健人と  
美術館所蔵作家の佐野繁次郎  
(1900～87)を取り上げ、一つの  
視点でそれぞれの作品に新たな  
側面を読む展覧会。ダンサーや

ミュージシャンなど他領域のア  
ーティストとのコラボレーションを  
数多く手がけてきた小金沢が自  
ら美術館所蔵の佐野繁次郎作  
品に目を通し数百点をセレクト。  
佐野のカット原画を元に新作の  
インスタレーションをつくり出す  
など、時代を超えて協働する。

[日程] 2月23日～5月6日

[会場] 神奈川県立近代美術館  
鎌倉別館

### 中部・北陸

#### ●山梨県山梨市

山梨市民会館

〒405-0031 山梨市万力1830

Tel. 0553-22-9611 大西

<https://www.yamanashi-kaikan.jp/>

#### 0歳からの親子で楽しむワンコ インコンサート

親子のコンサートデビューの機  
会を提供する演奏会。出演する  
アンサンブルレジェロは、ピアノ  
(2人)、クラリネット、フルート、  
チェロの5人のユニットで、普段  
はピアノ教室の主宰や医療従事  
者などとして働かたわら、地元  
山梨を中心に演奏活動を行って  
いる。クラシックからディズニ  
ーやジブリの曲まで、親子で楽  
しめる曲をお届けする。

[日程] 3月30日

[会場] 山梨市花かげホール

#### ●長野県長野市

長野県立美術館

〒380-0801 長野市箱清水

1-4-4

Tel. 026-232-0052 茂原奈保子

<https://nagano.art.museum/>

#### NAMコレクション2023 第Ⅵ期

信州出身の作家や、信州の風景  
が描かれた作品を中心に形成さ  
れた、幅広いジャンルの収蔵品  
から成るコレクション展。第Ⅵ期  
では、女性を主題とした作品や  
女性作家による作品を取り上げ、  
表現と女性との関係を歴史的、  
社会的な背景を踏まえて紹介す

る。また、企画展と連動した信  
州にゆかりのある春陽会作家の  
特集や、信濃デッサン館コレク  
ションから、昨年逝去した野見  
山暁治の油彩画の展示も行う。

[日程] 2月15日～4月23日

[会場] 長野県立美術館

#### ●愛知県豊田市

豊田市美術館

〒471-0034 豊田市小坂本町

8-5-1

Tel. 0565-34-6610 能勢陽子

<https://www.museum.toyota.aichi.jp/>

#### 未完の始まり：未来のヴァンダ ーカンマー

絵画や彫刻に加え、動物の剥製  
や植物標本など、世界中からあ  
らゆる美しいもの、珍しいもの  
が集められ、美術館や博物館  
の原型とされるヴァンダーカン  
マー(驚異の部屋)。世界のさまざ  
まな地域の5人の作家が、歴史や  
資料を調査・収集し、現代のテ  
クノロジーを交えながら、時を超  
えた事物の編み直しを試みる。  
近代に誕生した未完のミュージ  
アムから、これからの美術館や  
博物館の可能性を探る展覧会と  
なる。

[日程] 1月20日～5月6日

[会場] 豊田市美術館

### 近畿

#### ●大阪府岸和田市

南海浪切ホール

〒596-0014 岸和田市港緑町

1-1

Tel. 072-439-4173 大川拓哉

<https://namikiri.jp/>

#### 気軽にクラシックシリーズ カフェ タイムコンサート vol.2 ～ベート ーヴェンと午後のひとときを～

7月に就任した浪切ホール初のア  
ンバサダー3名のうちの1人、原  
由莉子がおしゃべり&ピアノで  
クラシック音楽の魅力を届ける  
コンサート。ショパンを特集した  
vol.1が好評につき、vol.2ではベ

ートーヴェン編を開催。140人が  
入る会場は、フラットで観客との  
距離が近く、毎回コーヒー・紅茶  
とお菓子を片手に、気軽にクラ  
シック音楽を楽しめる。今秋の  
vol.3ではリスト編を予定。

[日程] 4月14日

[会場] 南海浪切ホール

#### ●大阪府茨木市

茨木市文化振興財団

〒567-0888 茨木市駅前4-6-

16

Tel. 072-625-3055 落合佳人

<https://www.ibabun.jp/>

#### ベビー&キッズシアターフェス

昨年11月にオープンした茨木市  
文化・子育て複合施設「おにク  
ル」のグランドオープンシリーズ  
として開催するプログラム。サー  
カスや大道芸、パントマイム、リ  
ズムパフォーマンスなど子ども  
から大人まで楽しめるイベント  
をはじめ、ゴウダホールでは陽  
気な音楽と綱渡りや空中ブラン  
コを繰り出すクロワッサンサーカ  
ス、芝生広場ではカナダの劇団  
CORPUSが抱腹絶倒パフォー  
マンス『ひつじ』を上演する。

[日程] 4月28日

[会場] 茨木市文化・子育て複合  
施設「おにクル」

#### ●神戸市

横尾忠則現代美術館

〒657-0837 神戸市灘区原田  
通3-8-30

Tel. 078-855-5607 山本淳夫

<https://ytmoca.jp/>

#### 横尾忠則 ワーイ!★Y字路

故郷の西脇で夜の三叉路をスト  
ロボ撮影した横尾忠則。すると  
見慣れたはずの景色が全く異な  
る風景となった。ここからイン  
スピレーションを得た「Y字路」シ  
リーズは、変幻自在なパリエー  
ションを生み出し続けている。本  
展では、シリーズの原点である  
2000年から05年までの初期作

品と16年以降の新近作を展示。作風の違いから、多彩なY字路の魅力が感じられる。

[日程] 1月27日～5月6日

[会場] 横尾忠則現代美術館

### ●兵庫県西宮市

兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 西宮市高松町2-22

Tel. 0798-68-0223 木村孝夫

<https://www1.gcenter-hyogo.jp/>

#### 佐渡裕芸術監督プロデュース オペラ2024関連企画 歌劇『蝶々夫人』ハイライトコン サート～ええとこどり!

2011年から毎年開催されている佐渡裕プロデュースオペラの名場面を“ええとこどり”したプレコンサート。今年7月に上演される『蝶々夫人』の関連企画として、オペラ初心者向けに、有名なシーンの抜粋など本編の見どころ・聴きどころを、関西を拠点に活動するピアニストの伊原敏行によるストーリーの解説も交えて紹介する。「ええとこどり県内ツアー」として洲本市や養父市など県内9カ所でも開催。

[日程] 4月17日、18日

[会場] 兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール

### 中国・四国

#### ●鳥根県雲南市

雲南市演劇によるまちづくりプロジェクト実行委員会

〒699-1311 雲南市本次町里方55(チェリヴァホール内)

Tel. 0854-42-1155 青木奈緒

<https://unnan-engeki.com/>

#### 雲南市創作市民演劇2024

##### 『永井隆物語』

市民が演劇の世界にふれる喜びを体感し、参加者の相互交流と出会いの場を得ることで地域文化の活性化を目指す市民参加公演。今年度は市政施行20周年を記念し、市にゆかりがあり、2021年に公演を予定してい

たが、コロナ禍のため無観客上演となった『永井隆物語』を再演する。亀尾佳宏が脚本・演出を務め、19歳から60歳代までのさまざまな年齢層の市民が参加。出演のほか、プロの指導のもと舞台美術や音響・照明・制作などのスタッフワークにも参加する。

[日程] 4月27日、28日

[会場] 雲南市本次経済文化会館  
チェリヴァホール



『永井隆物語』初演(2021年4月)

#### ●香川県高松市

高松市塩江美術館

〒374-0076 高松市塩江町安原上602

Tel. 087-893-1800 高嶋良子

<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/shionoe/index.html>

#### 風景の切りとり方

写真家はどのように風景を切り取っているのか、1993年に始まった日米ヤングアーティストフェスティバルinしおのえ(3回目以降はしおのえ国際青年芸術祭)の出品者による作品を取り上げ、構図や色彩などから見える作家たちの独創性に着目する。この芸術祭はアメリカや韓国などから来日したアーティストの卵たちが塩江に約2週間滞在し、作品制作を行った。本展では芸術祭の講師を務めた写真家の比嘉良治らの作品も展示。

[日程] 2023年12月5日～4月14日

[会場] 高松市塩江美術館

#### ●愛媛県今治市

今治市玉川近代美術館

〒794-0102 今治市玉川町大

野甲86-4

Tel. 0898-55-2738 藤原敏子

<https://www.city.imabari.ehime.jp/museum/tamagawa/>

#### 館蔵品企画展

##### 『玉美+MAYA MAXX』

美術館所蔵のコレクションと、異なるジャンルのアートや伝統文化などがコラボレーションする展示企画「玉美+(プラス)」。第1弾となる今回は今治市出身の画家MAYA MAXXとコラボ。ロールスクリーンに描かれた動物や雲龍図などさまざまな28点の現代掛軸作品と、モチーフや色彩、イメージなどが共通する美術館所蔵作品を展示。それぞれの作品の素晴らしさを再発見することができる。

[日程] 2023年12月23日～5月6日

[会場] 今治市玉川近代美術館

### 九州・沖縄

#### ●北九州市

北九州市立美術館

〒803-0812 北九州市戸畑区西鞆ヶ谷町21-1

Tel. 093-882-7777 江浦芳子

<https://kmma.jp/>

#### 北九州市制60周年記念

##### コレクション展Ⅲ 特集 磯崎新 「還元」シリーズ

北九州市立美術館や北九州市立中央図書館などを設計し、ポストモダン建築の旗手として建築界を牽引した建築家・磯崎新(1931～2022)。1970年代からは継続的に版画制作にも取り組み、300点以上の作品を残している。本展では2022年12月に逝去した磯崎を偲び、2023年度に新たに収集した「還元」シリーズ12点を特集展示する。併せて開化絵に描かれた擬洋風建築など、建築をめぐる所蔵作品も紹介。

[日程] 1月4日～5月6日

[会場] 北九州市立美術館

#### ●長崎県長崎市

長崎市野口彌太郎記念美術館  
〒852-8117 長崎市平野町7-8  
平和会館1F

Tel. 095-843-8209 深堀・倉田

<https://www.city.nagasaki.lg.jp/kanako/820000/828000/p025651.html>

#### モチーフ～人を愛し、人を描く～

長崎ゆかりの洋画家・野口彌太郎(1899～1976)は、風景・風物を描く画家として知られているが、人物を描くことも好んだといわれている。人物を単なる実写の対象として描くのではなく、愛情深い眼差しをもってモチーフの本質をとらえた作品を数多く制作した。本展では、初渡欧時代から晩年に至るまで、国内外の滞在先で出会った人物や、人々の活動の瞬間を題材にした作品を紹介する。

[日程] 2023年10月24日～4月21日

[会場] 長崎市野口彌太郎記念美術館

#### ●熊本市

熊本県立劇場

〒862-0971 熊本市中央区大江2-7-1

Tel. 096-363-2233 前川史

<https://www.kengeki.or.jp/>

#### ホワイエサロンコンサートvol.8 熊本県立劇場40周年記念カル テット

ホールホワイエを会場としたコンサートシリーズの第8回。開館40周年記念として2022年に実施した動画企画「動く劇場」にて、阿蘇の大自然の中、「交響曲『蘇』より第四楽章～阿蘇神社復興記念～」を演奏した弦楽四重奏団の4人が映像を飛び出し劇場へ。ホワイエのガラスに映る新緑の中、動画内で演奏された楽曲をはじめ、弦楽四重奏の響きを楽しむことができる。

[日程] 5月18日

[会場] 熊本県立劇場

## ▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

### アーツセンター情報

#### ●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

#### ●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

#### ●情報提供先

地域創造レター担当  
Fax. 03-5573-4060  
Tel. 03-5573-4093  
letter@jafra.or.jp

#### ●富山県富山市

##### オーバード・ホール 中ホール

〒930-0858 富山市牛島町9-17  
Tel. 076-445-5620  
<https://www.aubade.or.jp/>

◎2023年7月1日オープン



富山駅周辺一帯のさらなるにぎわいの創出を目指し、駅北側の既存の大ホール横に最大652席の可動式客席を備えた中ホールがオープン。

施設は地上4階・地下1階建て(延床面積6841m<sup>2</sup>)。ホールは可動式客席を備えており、舞台を中央に配置するセンターステージ利用や客席をすべて収納する平土間利用など、利用者の自由な発想で、演劇やコンサート、ファッションショーなどさまざまな空間への転換が可能。舞台と客席の距離が近く、演者の表情や息遣いがダイレクトに伝わる臨場感も特徴。またダンス公演や展覧会など小規模なイベントにも使用できる練習室等も併設するほか、館内各所にテーブル・椅子を配置したスペースが設けられ、公演のない日でも市民が気軽に集う交流の場にもなっている。

[オープニング事業] 富山特別企画 坂東玉三郎×鼓童「アマテラス幻想」

[施設概要] ホール(最大652席)、練習室3室、ウォーミングアップ室、音楽鑑賞室 ほか

[設置者] 富山市

[管理・運営者] (公財) 富山市民文化事業団

[設計者] (株) 久米設計・(株) 押田建築設計・(有) 空間創造研究所 設計・工事監理共同企業体

#### ●京都府向日市

##### 永守重信市民会館

〒617-8665 向日市寺戸町中野20  
Tel. 075-874-2120  
<https://www.city.muko.kyoto.jp/kaikan/>

◎2023年2月8日オープン



耐震強度不足で閉館した旧市民会館の建て替えにあたり、日本電産創業者で向日市出身の永守重信氏から建物の寄付を受け整備。

建物は地上3階・地下1階建てで、2021年1月に完成した市役所新庁舎に併設。外観は市特産の竹をイメージしたデザインで、演劇やコンサートが楽しめるプロセニウム形式の多目的ホールをはじめ、大きさの異なる6つの会議室、調理室などを備える。また、ホワイエには授乳室やキッズスペース、ギャラリーがあり、市民交流の促進に繋がっているほか、3階のテラスからは向日市の景観を楽しむことができる。

今後は市民のコミュニティーを広げる場として新たな挑戦や出会いを提供し、市民の文化・芸術の振興と生涯学習環境等の充実を図ることを目指す。

[オープニング事業] 開館記念 千住真理子&関西フィル弦楽アンサンブルコンサート

[施設概要] ホール(475席)、ギャラリー(16m<sup>2</sup>)、第1会議室(113m<sup>2</sup>)、第2会議室(163m<sup>2</sup>)、第3会議室(68m<sup>2</sup>)、第4会議室(55m<sup>2</sup>)、和室、調理室 ほか

[設置・管理・運営者] 向日市

[設計者] (株) 都市居住文化研究所

#### ●大阪府高槻市

##### 高槻城公園芸術文化劇場

〒569-0077 高槻市野見町6-8  
Tel. 072-671-1061  
<https://www.takatsuki-bsj.jp/tat/>

◎2023年3月18日オープン



老朽化した市民会館に代わる新たな文化施設として、高槻城公園の真ん中にオープン。建物の周辺にはかつての高槻城を思わせる堀や塀を再現し、外壁には城下町の格子戸や公園の木立をイメージした縦格子の木材(ルーバー)が張り巡らされている。

プロセニウム形式の大ホールは、音楽・演劇・舞踊などの公演から各種式典や発表会まで多彩に使用でき、壁面から天井までホール全体を包み込む木製のキューブはデザインだけでなく音響効果にも配慮されている。小ホールはコンパクトなサイズのコンサートホールとして、ソロやアンサンブルの演奏会などに利用可能。またブラックボックス型の大スタジオは、本格的な演劇・ダンス公演に特化している。

ほかにも、防音機能などを備えたスタジオやカフェなども整備され、これまで以上に市民が利用しやすい施設となっている。

[施設概要] トリシマホール(1,505席)、中ホール(602席)、太陽ファルマテックホール(205席)、サンユレックホール(168席)、中小スタジオ10室、カフェ、授乳室 ほか

[設置者] 高槻市

[管理・運営者] (公財) 高槻市文化スポーツ振興事業団  
[設計者] (株) 日建設計

## ▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

### 兵庫県丹波篠山市 丹波篠山市民ミュージカル 『ノートル=ダム・ド・パリ～愛と宿命の物語～』



『ノートル=ダム・ド・パリ～愛と宿命の物語～』 写真提供：田園交響ホール

● 丹波篠山市民ミュージカル第11弾『ノートル=ダム・ド・パリ～愛と宿命の物語～』  
[主催] 丹波篠山市民ミュージカル実行委員会、丹波篠山市、丹波篠山市教育委員会  
[会期] 2024年2月11日、12日(4ステージ)  
[制作・会場] 田園交響ホール  
[演出] 松本昇三 [脚本] 勇来佳加  
[作曲] 河野良 [振付] Kayeon  
[舞台美術] 野崎みどり  
[出演] 公募市民(全員がダブルキャストで2ステージずつ出演)

● 丹波篠山市民立田園交響ホール  
「ホロンピア'88北摂・丹波の祭典」の中核施設として兵庫県が設置し、篠山市が運営するたんば田園交響ホールとして1988年4月に開館。2011年4月、兵庫県から篠山市に移譲。19年5月の市名変更(篠山市→丹波篠山市)に伴い、丹波篠山市民立田園交響ホールと改称。市の教育委員会が所管する直営ホール(800席)。

\*1 大阪の演劇集団バイコン代表。演出家として西成区民ミュージカルや泉野市民ミュージカルなど市民参加型公演を多数手がける。丹波篠山市民ミュージカルには1回目から参加し、第4回、5回を除くすべてを演出・指導。

\*2 開館年の1988年5月に設立された市民による裏方ボランティア組織(有償)。ホール開催の「ステージオペレーター養成講座」を受講し、修了(40時間以上)した人のみが入会可。舞台部・照明部・音響部の3部に別れて、館主催事業や貸館事業の裏方業務、クラブ自主企画事業などを手がける。現在、舞台部11人、照明部11人、音響部12人。

22年前にスタートし、ほぼ隔年で実施され、市民から“ささミュ”と親しまれている丹波篠山市民ミュージカル。その第11回『ノートル=ダム・ド・パリ～愛と宿命の物語～』が市立田園交響ホールで上演された。ノートルダム大聖堂の下で繰り広げられるヴィクトル・ユゴーの小説『ノートル=ダム・ド・パリ』をオリジナル脚本でミュージカル化し、出演者71人をはじめ裏方や衣装、大道具・小道具、音響・照明など市民32人が参加。人口4万人弱の市でありながら4回公演の総入場者は2,891人と、過去最高を記録した。

原作は、大聖堂の鐘つき男カジモドと彼を育てた献身的な聖職者のフロロが流浪の民ロマの美しい踊り子エスメラルダと出会い、運命を狂わせていく愛憎劇。舞台には鐘楼を据えた聖堂が聳え、15世紀パリを彷彿とさせる手づくりコスチュームに身を包んだ市民が、モノローグ、独唱、合唱、群読、群舞など見せ場が連続する3時間のステージを全力疾走した。

今回で9回目となる演出・指導の松本昇三さん(\*1)は、「初めてハッピーエンドではない作品に取り組んだ。市民創作は10年ぐらいで一区切りにする公立ホールが多いなか、長く続けている丹波篠山だからこそその挑戦だった。次回に向けて個人的に歌やダンスをスキルアップしてオーディションに臨む市民も多く、そうした努力にどれだけ寄り添えるかが、良い作品づくりの秘訣だと思っている」と話す。

出演者は小学生以上を対象に毎回公募。今回は小中学生24人、高校生8人、大学生8人、20～30歳代11人、40歳代以上20人で、その4割強が初参加。第1回に出演した女性の娘がエスメラルダ役を射止め、前回の出演者が子どもを連れて参加するなど、2世出演者も多い。脚本・演助の勇来佳加さんは、「まるで家族のようなチームで、欠席者が出て自分たちでどう変えればいいかを自主的に相談して稽古している」と感慨深げだった。

稽古は9月にスタートし、1月に入ってからほぼ毎日、1月半ばからは本舞台にセットを組んで稽古。大阪拠点の松本さんたちは約80km

を通算80回以上往復した。松本さんだけでなく、作曲、舞台美術、照明などのプロスタッフ陣も継続して参加。こうしたチームづくりが可能だったのは、ホール側の職員体制が安定していたことが大きい。

前田園交響ホール館長で、現在はホール専門員として市民ミュージカルを含めた現場を牽引する小林純一さんは、開館した1988年から市職員として勤務し、音響技師でもある。「私の場合、異動がほとんどなかったのも、音響もやりながらホールの業務全般をこなしてきた。照明の技術職員もいたが定年退職し、今はステージオペレータークラブ(SOC)(\*2)の市民ボランティアと職員でやりくりしている。職員数も少なく、市民に主体的に動いてもらわないと何もできない。私たちの役割はそういう環境をつくっていくことだと思っている。ささミュでは実行委員会を組織しているが、全員が裏方スタッフや出演者の実働を担う市民の方々。こうした市民が公演に向けて気分を高めていけるようにしている」と話し、自らも音響プランナーとして、毎回稽古に立ち合い、音出しをしてきた。

同ホールの代名詞ともなっているのがSOCだ。地域でのホール運営には舞台・照明・音響の市民ボランティアが不可欠だとして、開館に合わせて全国に先駆けて裏方ボランティア組織を立ち上げ、今回の公演でも裏方を会員21人が担った。「現在、会員数は34人。開館当初からのメンバーも活躍しているが、ささミュを続けることにより、若い人たちが裏方に興味をもつきっかけになってくれれば」と、19年に会長になった山内伸広さん(02年入会)は話す。

市民ミュージカルの成果のひとつが衣装制作のための市民チームが生まれたこと。今回は7人で200着を仕上げた。チラシには出演者全員の写真が掲載され、出演者が涙顔で客出しし、市民の仕切りで楽日を締める…。22年間の継続で出演者だけでも延べ600人強。社会人劇団も4つでき、演劇やダンスの道に進んだ人もいる。知り合いの誰かしらは市民ミュージカルに関わっているという市民文化活動の土壌が、この地には育まれていた。(田中健夫)